

整形外科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究にかんする倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

また、対象となる患者さんで研究参加を拒否したいと思われた方も、以下の「問い合わせ先」までご連絡下さい。その際には、研究の対象とはしないように致します。

〔研究課題名〕 重度外傷に伴う下腿・足部軟部組織欠損再建における穿通枝プロペラ皮弁と遊離皮弁の治療成績の比較

〔研究機関〕 帯広厚生病院整形外科

〔研究責任者〕 本宮真（帯広厚生病院リハビリテーション科部長，整形外科，手外科センター長）

〔研究の目的〕 重度下肢外傷に伴う軟部組織欠損に対して、各種軟部組織再建の方法が報告されています。穿通枝プロペラ皮弁は血管吻合が不要で、欠損部近傍の組織を用いることで似た質感での再建が可能で、手術時間が短く、簡便で有用な方法とされております。一方で、穿通枝プロペラ皮弁は部分壊死をはじめ合併症の割合が高く、外傷に伴う軟部組織欠損再建においては遊離皮弁を推奨する報告も認めます。外傷に伴う軟部組織欠損創では腫瘍切除後の欠損創とは異なり、欠損周囲にも損傷が及んでいるため、穿通枝プロペラ皮弁をはじめ、有茎皮弁の難易度が高いとされております。しかしながら、これまでの報告の多くが、外傷例と腫瘍切除後の軟部組織欠損創を分けずに検討されているものがほとんどです。また、同一施設で外傷に伴う軟部組織欠損創に対する穿通枝プロペラ皮弁と遊離皮弁による治療成績を比較した報告はほとんど認めません。

本研究において、外傷に伴う下腿・足部の軟部組織欠損創に対して、当科で穿通枝プロペラ皮弁または遊離皮弁で再建を行った症例の成績を比較・検討することです。

〔研究の方法〕

●対象となる患者さん：2015 年 11 月～2022 年 10 月までの 7 年間に当院整形外科にて、外傷に伴う下腿・足部軟部組織欠損に対して、後脛骨動脈穿通枝皮弁または遊離皮弁による四肢外傷治療を受けた患者様を対象としております。

●利用するカルテ情報

- ①年齢、性別、病歴情報
- ②皮弁の情報・手術の内容
- ③皮弁の成績と合併症

〔個人情報の取り扱い〕

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌等で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

*上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

〔問い合わせ先〕

JA 北海道厚生連 帯広厚生病院 北海道帯広市西 14 条南 10 丁目 1 番地 電話 0155-65-0101
整形外科 担当医師 本宮真